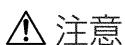


# MITSUBISHI

# 三菱電機エアコン別売部品

# ドレンアップメカ (PAC-KM25DM) 取付説明書

WT04510X02



注意

適用機種を必ず確認し、取付け間違ひのないようにお願いします。

## 安全のために必ず守ること

- ご使用の前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ取付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。



誤った取扱いをしたとき、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。



誤った取扱いをしたとき、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- ・お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ・お使いになる方は、いつでも見られる所に大切に保管し、移設・修理の時は、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。



### 警告

取付けは、販売店または専門業者に依頼してください。

・ご自分で取付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。

・接続や固定が不完全な場合は、発熱や火災等の原因になります。

空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒーター等の別売品は必ず、当社規定の製品を使用してください。

・また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

電気部品に水(洗浄水等)をかけない。

・電気部品に水がかかると感電、発煙、発火の原因になります。

取付工事は、この取付説明書に従って確実に行ってください。

・取付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

・電気回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。

改修は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店にご相談ください。

・修理に不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

## 取付けをする前に



食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。

・食品の品質低下等の原因になります。

特殊環境には、使用しないでください。

・油・蒸気・硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損することがあります。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを十分に行って施工してください。

・インバーター機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与える人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になります。

濡れて困るもの上にユニットを据付けないでください。

・湿度が80%を超える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

## 取付け(移設)・電気工事をする前に



電気配線は張力がかからないように配線工事をしてください。

・断線したり、発熱や火災の原因になります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

製品の運搬には、十分注意してください。

・20kg以上の製品の運搬は、1人で行わないでください。  
・製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。  
・熱交換器フィン表面や部品端面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。  
・包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから破棄してください。窒息事故等の原因になります。

## 試運転する前に



濡れた手でスイッチを操作しないでください。

・感電の原因になります。

パネルやガードをはずしたまま運転しないでください。

・機器や回転物、高温部、高電圧に触れると巻き込まれたり、火傷や感電の原因になります。

エアフィルターをはずしたまま運転しないでください。

・内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

運転停止後、すぐに電源を切らないでください。

・必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。



## 形名、適用機種

MPE-RP50～160CA2,3

付属部品の確認 本別売部品には、この取付説明書以外に、下記の部品が入っていますのでご確認ください。

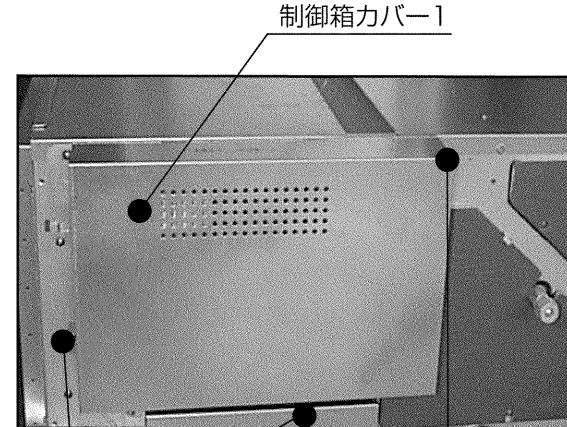
部 品	①ドレンポンプ	② 仕 切 板
形 状		
数 量	1	1
部 品	③ゴム栓	④ゴムブッシュ
形 状		
数 量	1	1
部 品	⑤結束バンド	⑥PTTネジ(4×10)
形 状		
数 量	2	4+1(予備)

## 1 ドレンポンプの取付け

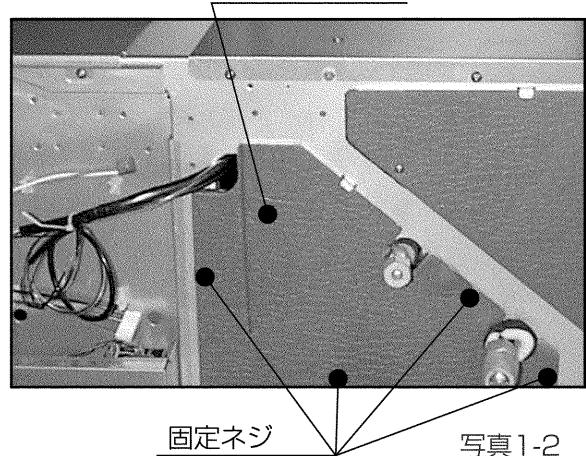
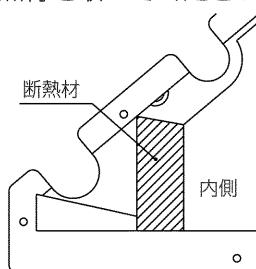
ドレンポンプの取付けは、室内ユニットの据付け前に行ってください。

### 【室内ユニット本体の準備】

- 写真1-1で示す固定ネジ(各2本)を外し、制御箱カバー1、2を取り外します。



- 写真1-2で示す固定ネジ(4本)を外し、熱交換器カバーを取り外します。熱交換器カバー裏側の下図に示す断熱材を取ってください。



- 写真1-3に示す位置のノックアウト部をドライバー等の工具を用いて開口します。(2ヶ所)

ノックアウト穴

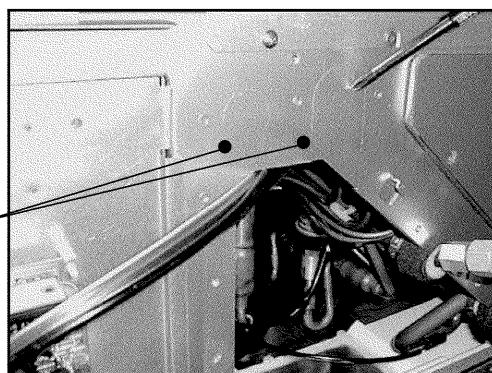


写真1-3

### 【ドレンポンプの取付け】

- 写真1-4で示すように①ドレンポンプ本体、②仕切板およびドレンソケットを付属の⑥PTTネジ(4本)を使用して取付けます。  
※ドレンホースのねじれがないようにドレンソケットを取付けてください。ドレンホースがねじれるとドレンソケットのネジが緩み、水漏れの原因になります。
- ③ゴム栓で元のドレン口を塞ぎます。  
※水漏れの原因になりますのでゴム栓はしっかりと奥まで差込んでください。

### 【ドレンソケット取付け詳細】

下図のようにドレンソケットをU字ノックアウト部に差込み、②仕切板でフレームを挟込むように固定します。  
②仕切板は断熱材側が手前になるように取付けてください。

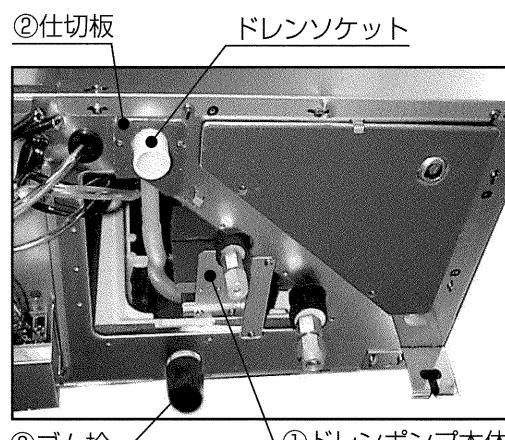
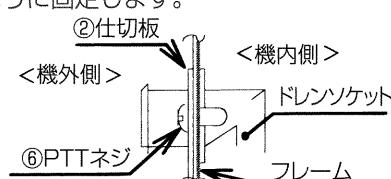


写真1-4

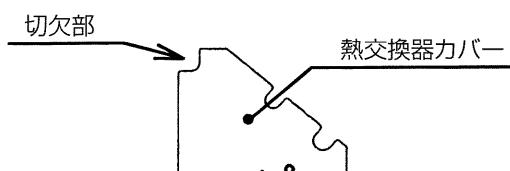
## 2 電気配線要領

1. ドレンポンプの配線をユニット外に取出します。

(写真2)

- (1) 前項で開口したノックアウト穴に④ゴムブッシュを取り付け、ドレンポンプ用リード線(赤と青のコネクター付き)を取出します。

- (2) ドレンセンサー用リード線(白のコネクター付き)は熱交換器カバーを取付けたときに切欠部を通るように取出します。



ドレンポンプ用  
リード線(灰色)  
ドレンセンサー用  
リード線(黒色)

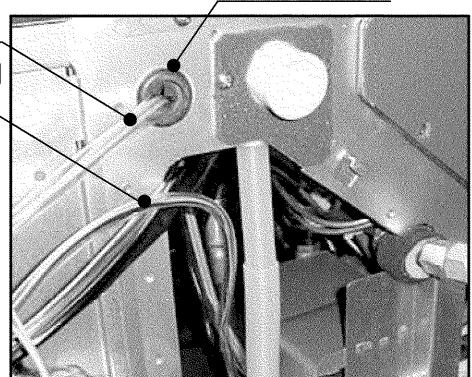


写真2

2. ドレンポンプの配線を室内ユニットの本体制御箱に接続します。

- (1) ドレンポンプ用の青コネクターは制御箱内の制御基板上CNPに差込んでください。

丸端子は電源配線方式により異なりますので、下記に従って接続してください。

室内外接続配線が制御線・電源線兼用方式(電源重畠)の場合

丸端子は室内外接続用線端子盤S2に接続してください。(図2-1)

室内外接続配線が制御線・電源線分離方式(内外別受電)の場合

別途、別売の配線リプレースキットが必要で、配線リプレースキットの端子盤Sに接続してください。(図2-2)

- (2) ドレンセンサー用リード線の白コネクターは、制御基板上のCN31に接続します。

出荷時基板上のCNP,CN31には保護用のコネクターを差込んでいますので差換えてください。

制御線・電源線兼用方式(電源重畠)の場合

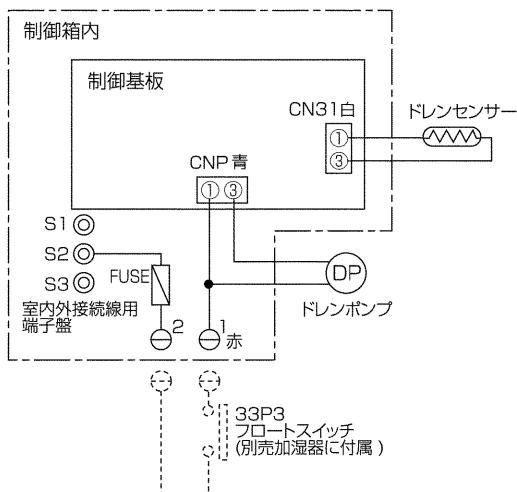


図2-1

制御線・電源線分離方式(内外別受電)の場合

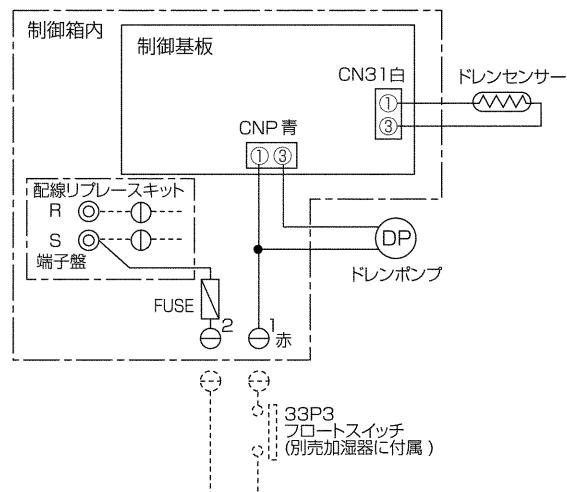


図2-2

- (3) 配線接続後、下記要領にて⑤結束バンドで余ったコードを適宜結束してください。

### リード線結束要領

制御箱内ではノイズ対策のため200V配線と低電圧線を分けて配線しています。

ドレンアップメカのリード線も同様に分ける必要がありますので、下記要領で制御箱内のリード線と結束してください。

- ドレンポンプ用リード線は200V配線ですので余ったリード線は電源端子台からのリード線と結束してください。
- ドレンセンサー用リード線は低電圧線ですので余ったリード線は配管センサーリード線(黒チューブ付2心リード線)と結束してください。

当社別売部品の加湿器と組合せて使用される場合、取付け作業が一部異なりますので、  
加湿器に付属の取付説明書に従い組みください。

### 3 ドレン配管工事

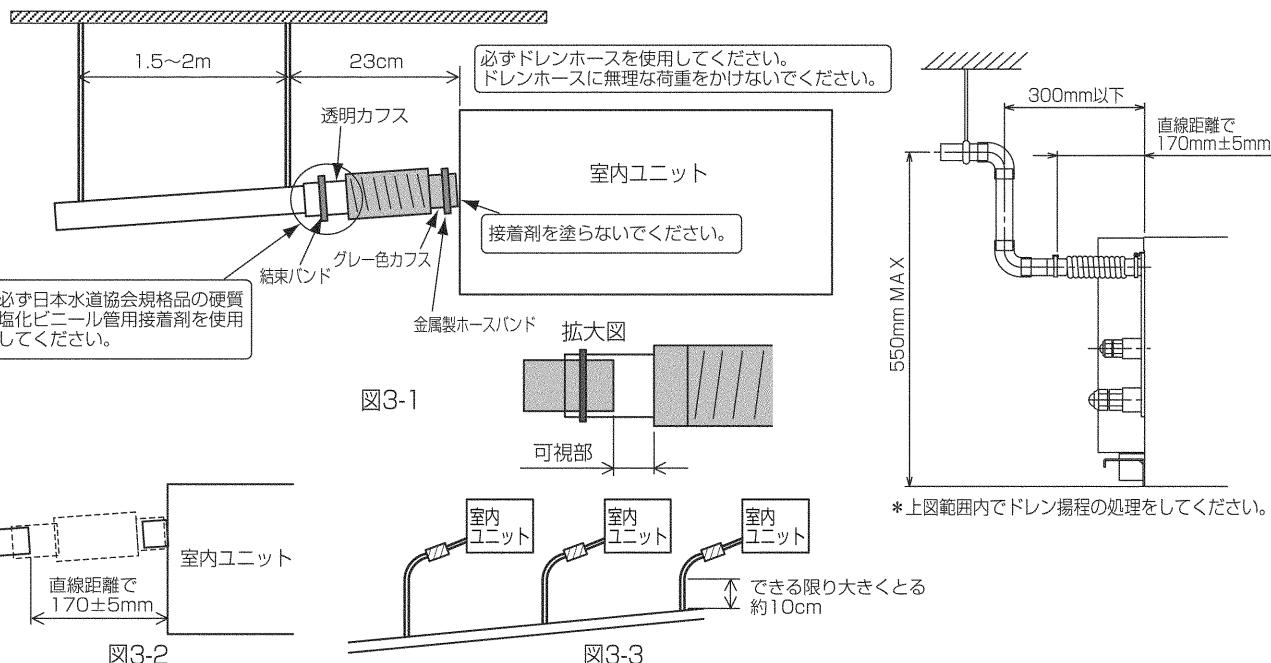
- ドレン配管の施工時は以下に示す事柄を必ず守ってください。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）となるようにしてください。
- ドレン配管は、イオウ系ガスが発生する下水溝には、直接入れないでください。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水タレが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン比重0.03）を巻いてください。
  - ①断熱材の厚さは、配管のサイズにより選定すること。
  - ②最上階または高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
  - ③客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。
- 施工後、ドレンが排出されていることを、ユニットドレン口可視化部およびドレン配管最終出口部で確認してください。

#### ◆ドレン配管工事手順（ドレンホース、金属製ホースバンド、結束バンドは室内ユニットに付属のものを使用してください。）

1. ドレン配管は室外側（排水側）が下り勾配（1/100以上）となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。（図3-1）
2. ドレン配管の横引きは20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。  
エア抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出る場合があります。
3. ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管VP-25（外径φ32）を使用してください。
4. 必ず付属のドレンホースを使用し、室内ユニットドレン口と現地配管の距離は図3-2に従い、工事を行ってください。
5. ドレンホースに無理な引張・圧縮荷重がかからないようにしてください。
6. 現地配管とドレンホースの接合部は日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用し、接合および止水してください。また、差込部が抜けないよう結束バンドにて固定してください。
7. 室内ユニットとドレンホースの接合部はメンテナンス時に外す場合がありますので、接着せず、金属製ホースバンドで固定してください。
8. 集合配管の場合、図3-3のように本体ドレン出口より10cm低い位置に集合配管がくるようにしてください。
9. ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
10. ドレン配管はイオウ系ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。

注) ・ドレンホースを曲げて使用しないでください。

- ・ドレン配管スペースが横方向に取れない場合は、軟質塩ビカフス（現地手配）等による接続をお薦めします。
- ・天井内が高温多湿露圏（露点温度26°C以上）で長時間運転されると、ドレンホース、金属製ホースバンド部に結露する場合がありますので、そのような条件で使用する可能性がある場合は断熱材を貼付けるなどの処置をしてください。
- ・ドレンホースの接合部は金属製ホースバンド、結束バンドを使用してください。



#### ▲注意

ドレン配管は、確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。  
配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

#### ▲注意

ドレンホース接続時に使用する接着剤は、必ず日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用してください。それ以外を使用すると、水漏れし、家財を濡らす原因になります。  
ただし、室内ユニット排水出口側には絶対に接着剤を塗らないでください。

## 4 ドレン排水確認

5項のチェックシートを元に、接続部の確認、排水の確認を行ってください。排水の確認は下記の要領に従って実施してください。

- ~ 暖房期の据付けの際にも排水確認は必ず実施してください。
- ~ 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 制御箱内制御基板上のSWEをONにしてください。
2. 室内ユニットの熱交換器カバーを取り外します。取り外し方は、[1] - 2の項を参照してください。
3. ドレンパンに約1.5~2ℓを目安に注水してください。(写真4)  
注水の際、ドレンパンから水がこぼれないよう注ぎ口は、確実にドレンパン内に入れてください。  
(挿入が不完全ですと、注水がユニット外に流出します。)  
(注1) 上記水量を注水しても排水確認ができない場合は逆勾配に吊り下げられている可能性があります。  
水準器等を使用して本体が正常(水平)に設置されているか確認してください。  
また、必要以上の水を注水するとドレンポンプが水没し故障の原因になります。
- (注2) 水中ポンプなどを使用して、注水される場合は、注水量が0.4ℓ/min以下になるようバルブ等で調整してください。注水量が多いと室内ユニットからの水漏れやドレンポンプの故障の原因になります。

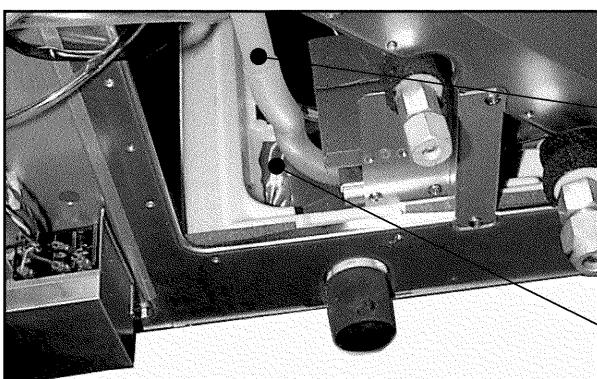


写真4

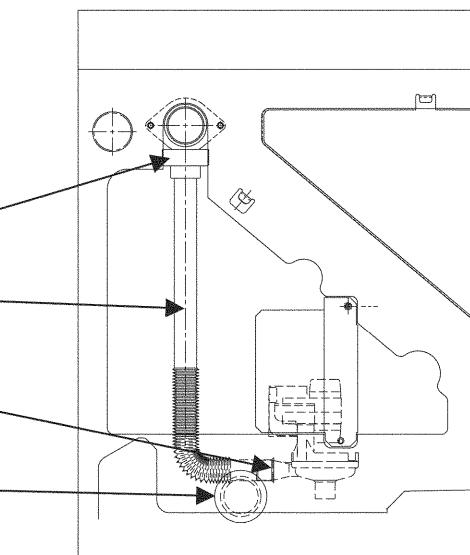
4. 室内ユニットの電源を入れ、試運転を開始してください。
5. ドレンが排水されているかドレンホース部(透明)で確認してください。  
(注) ドレン口可視化部を断熱材で覆う前に光を当てるなどしてドレンが排出されていることを確認してください。ドレン配管接続部に漏れがないことを確認してください。
6. 確認後は、元電源を切り、SWEをOFFに戻してください。配線作業終了後、作業もれがないか確認してください。漏れがなければ分解とは逆の手順 ([1]-2→[1]-1)で元に戻してください。

## 5 ドレン排水確認チェックシート

### 1. 接続部の確認

排水確認前に実施

項目	チェックマーク
ドレンソケットのネジのゆるみ確認。 ネジ山が残り2本まで確実に締め込まれていること。	
ドレンホースの接続確認。 ドレンホースにねじれがないこと。	
ドレンアップメカ部とドレンホースの接続確認。 奥まで差込まれ、結束バンドで確実に固定されていること。	
ドレン口のゴム栓。 元のドレン口に付属のゴム栓が確実に差込まれていること。	



### 2. 排水運転確認

項目	チェックマーク
ドレンホース(透明部)内を水が排水していること。	
接続部から水漏れがないこと。	

### 3. 排水運転後の確認

項目	チェックマーク
SWEをOFFに戻す。	



〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)  
〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 冷熱システム製作所(073)436-2111

WT04510X02